

伊勢市教育長賞

「わたしのおばあちゃん」

小俣小学校 三年 櫻井 杜和

さくらい

とわ

私のおばあちゃんは認知症です。夜はすぐくうるさくて、私はいつもあまりねむれません。少しの「と」でもすぐに言ってくると、「はんもさつき食べたばかりなのにすぐに食べたがります。「だめだよ」とおしえてあげるとおばあちゃんは「いいの」といつて食べていますが、そのせいか、いつも夜になると頭がいたいと言っています。

一番のなやみ」とはお風呂のときです。おばあちゃんがあがったあとはいつもごみやトイレットペーパーがうかんでいて入れません。私はお湯をぬいてお風呂に入ります。

おばあちゃんは、私が生まれた時から認知症だったようですが、昔は、私が泣い



ているとよくなぐさめてくれました。

いつしよにベリーに買い物に行ったときに、道路をわたるときに信号をちやんとかくにんするように注意してくれたこともあります。私はおばあちゃんのが好きでした。でも、それから一年たつごとに、大きな入院がふえて、入院から帰ってくるごとに、おばあちゃんは少しずつ様子がおかしくなつていきました。今は三時と五時の着がえは、一人でできないので、私がお世話をしています。

おばあちゃんが入院している間は、家の仲はおだやかで、けんかもありません。夜はねむれるしきれいなお風呂にも入れます。そんな風に私は考えています。

私がきらいなのはおばあちゃんではありません。認知症という病気がきらいです。しっかりしたおばあちゃんにいつか戻ってきてほしいと思います。